

第633回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 陸前高田市震災復興事業

…………… 陸前高田市

風光明媚なリアス式海岸に位置し、東北有数の海水浴場でもあり国の名勝にも指定されている陸前高田市の「高田松原」を含む周辺一体は、年間約100万人が訪れる観光地でもありました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では地盤沈下や液状化が生じたとともに、地震直後に発生した大津波は気仙川を7km以上遡上し、中心市街地を含め壊滅的な被害をもたらし、死者・行方不明者は1,759人にも及び、県内最大の被災地となりました。

現在、新しい中心市街地となる区域の土地区画整理事業によるかさ上げ工事や安全・安心な暮らしを支える防潮堤、水門の復旧・整備を進めるとともに、高田松原の賑わいの再生のため、松原や砂浜の再生、復興祈念公園の整備を行なっています。

①陸前高田市被災市街地復興土地区画整理事業

津波により市役所をはじめ中心市街地のほぼ全ての建物が流出した高田地区と今泉地区においては、土地区画整理事業により、高台住宅地の整備や浸水区域の一部をかさ上げし、商業施設等を配置するなど、安全でコンパクトな新しい市街地の整備を進めています。

施行面積は、高田地区が約186ha、今泉地区は約112haと被災地最大規模であり、全長3kmに及ぶベルトコンベアを使用した土砂搬出により工事期間の短縮を図りました。平成32年度の事業完成を目指しています。今年4月には、高田地区のかさ上げ地で初の営業となる大型商業施設「アバッセたかた」と「まちなか広場」がオープンし、7月には市立図書館が開館するなど、新たな中心市街地が形成されつつあります。



陸前高田市被災市街地復興土地区画整理事業

②高田地区海岸災害復旧事業

東日本大震災では海岸の防潮堤が倒壊・流失しました。復旧工事は、海岸沿いの第一線堤と第二線堤を整備し、第一線堤は震災前と同じ海拔3mで整備し、第二線堤は震災前の5.5mに対して12.5mと2倍以上の高さとなります。

また、同じく津波で損壊した海中の人工リーフ（1,200m）も震災前と同様に再整備を実施し、平成28年12月に気仙川水門に隣接する区間を除き完成しました。



高田地区海岸災害復旧事業

③気仙川災害復旧事業（気仙川水門）

東日本大震災に伴う大津波は、海岸付近で最大痕跡高は海拔17.0mであったことが確認されております。二級河川気仙川では、災害復旧事業として、水門を設置し、防潮堤の再整備とあわせて、新しい市街地を津波から守ります。

昨年度までに気仙川右岸側3門の水門土木・設備工事を終え、平成31年度の完成を目指して、左岸側の水門（2門）の工事を進めています。



気仙川災害復旧事業（気仙川水門）

④高田松原津波復興祈念公園事業周辺（奇跡の一本松、砂浜再生、松原再生）

被災前の高田松原周辺は、道の駅「高田松原」、県営野外活動センター、市営「海と貝のミュージアム」や市営野球場、そして7万本と言われた松林や海水浴場があり、賑わいの場、逍遥する空間でした。

巨大な津波に耐えた「奇跡の一本松」は、塩水の影響で枯死しましたが、モニュメントとして整備され、復興のシンボルとしての役割を果たしています。

この「奇跡の一本松」

を含む約130haの区域は、高田松原津波復興祈念公園として国・県・市が連携し整備を進めており、国営追悼・祈念施設（仮称）及び周辺区域や新道の駅等については、平成32年度の供用を目指しています。

また公園区域内では、白砂青松を取り戻すべく「松原」と「砂浜」の再生事業についても平成31年度の完成を目指し実施しています。



高田松原津波復興祈念公園鳥瞰イメージ

2. 大船渡海岸防潮堤整備事業

大船渡港は、昭和34年に重要港湾に指定され、セメントやその原燃料が多く取り扱われていました。

被災前の防潮堤の高さは海拔3～3.5mでしたが、東日本大震災津波における大船渡港津波痕跡高さは10.4mであり、大船渡市内でも甚大な被害が生じました。

このため、大船渡港の津波対策として、本年3月に復旧した国土交通省施工の湾口防波堤との組合せにより、防潮堤の計画高さを海拔7.5mとし、延長約7kmに及ぶ防潮堤の復旧及び整備を進めています。

東日本大震災津波の発生時には、水門・陸閘の閉鎖作業に関わり多くの消防団員が犠牲になった事実を踏まえ、現地作業が生じないよう自動閉鎖システムの導入も進めています。



3. 東北横断自動車道釜石秋田線 建設事業

東北横断自動車道釜石秋田線は、国の震災復興のリーディングプロジェクトに位置付けられ、「復興支援道路」として、かつてないスピードで整備が進められています。

平成23年度に事業化された釜石JCT～釜石西IC（6km）及び遠野住田IC～遠野IC（11km）では、現在、国土交通省によりトンネル工、橋梁工等が実施されています。

両工区の平成30年度の完成により、釜石秋田線は全線開通することとなります。

これにより内陸部と重要港湾釜石港を結ぶ物流の効率化、沿線の企業立地の促進、地域医療の連携強化等多くの効果が期待されます。

また、釜石市はラグビーワールドカップ2019™の会場の一つとして選ばれており、大会を契機に国内外から多くの観光客が訪れることが見込まれ、三陸沿岸地域の観光振興、引いては岩手県の復興にも大きな役割を果たすこととなります。

